

2021/5/28 (金)
インターネット世界旅行

ポーランド (第2回)

クラクフ、ヴロツワフ、グダニスクの巻



吉岡 芳夫

この資料は、インターネット上の情報を利用して作成しました。

ポーランド

主要都市

—	都市	県	人口
1	ワルシャワ	マゾフシェ県	1,710,055
2	クラクフ	マウオポルスカ県	754,624
3	ウッチ	ウッチ県	747,152
4	ヴロツワフ	ドルヌィ・シロンスク県	633,000
5	ポズナン	ヴィエルコポルスカ県	556,022

グダニスク

- ヴィエリチカ岩塩坑、アウシュビッツ強制収容所などに代表される14の世界遺産が点在するポーランドは、訪れる街によって様々な顔を持ち、旅先で色々な体験・経験ができる国です。

発展を続ける首都ワルシャワ、昔からの面影を残す歴史都市クラクフ、小人が住む街ヴロツワフなど個性豊かな観光地が旅先で待っています。

2016年1月からはLOTポーランド航空が日本から就航し、ますます身近になります。

クラクフ



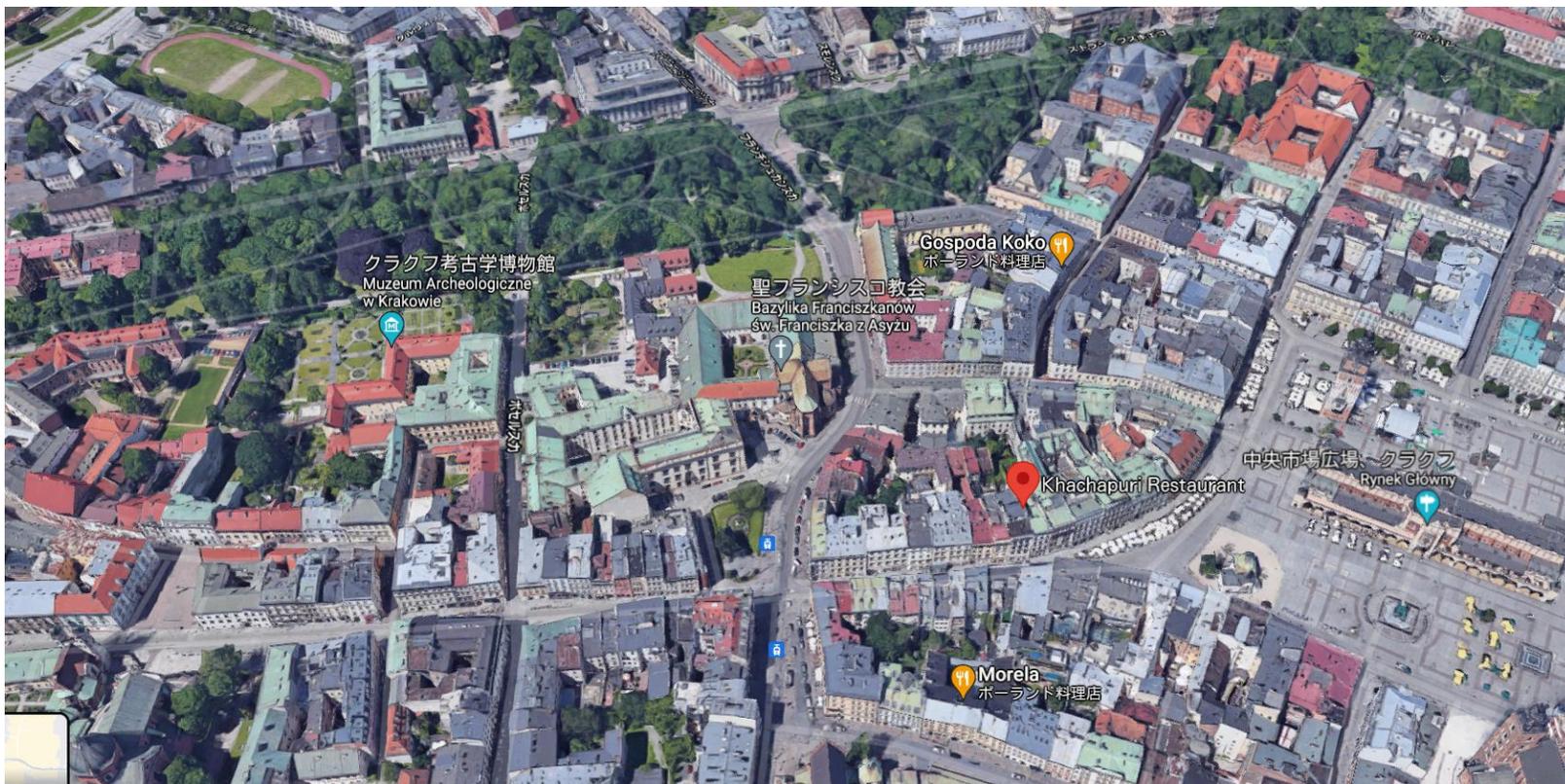
クラクフの中心部をなす旧市街は、1978年に「**クラクフ歴史地区**」として**ユネスコの世界文化遺産**に登録されて以来、世界的に有名になりました。

このため、中央広場周辺は連日国内や海外からの観光客で溢れ、大変な混雑ぶり。

クラクフの見どころ、レストラン、ホテルのほとんどが、この南北1.4km、東西1kmほどしかない旧市街地区に集中しているのだから、それも納得です。

おおむね徒歩で観光できるクラクフは、日本人にとっても訪れやすい街といえます。

クラクフの中心街



クラクフはチェコ共和国との国境に近い南部ポーランドの都市で、**中世に栄えた中心街とユダヤ人街**は今も当時の名残を残しています。

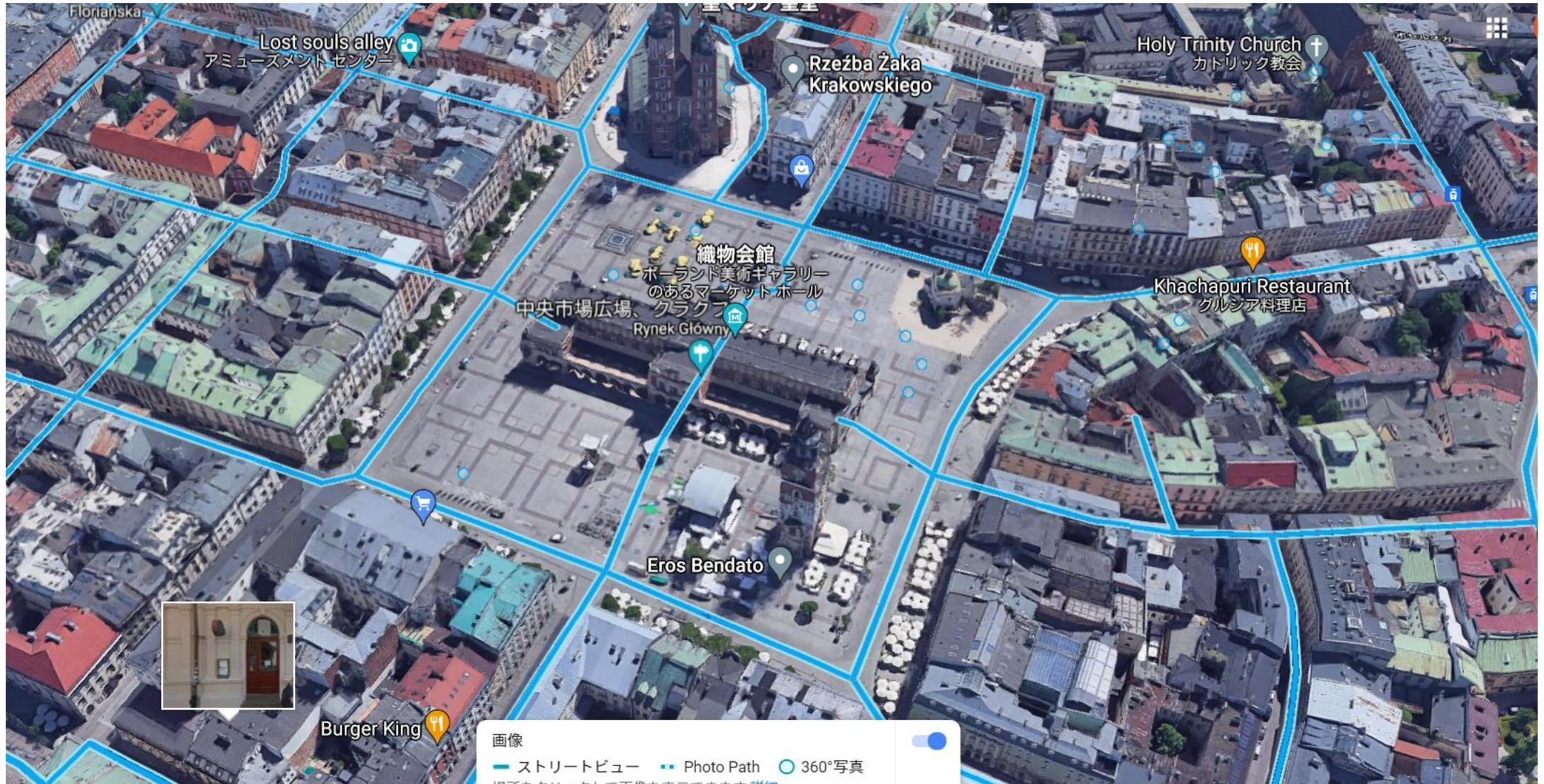
プランティ公園と中世の城壁に囲まれた**旧市街の中心にあるのが、広々とした風格のある中央市場広場**です。

この広場にはルネッサンス時代に取り引が活発に行われていた織物会館や、**14世紀のゴシック様式の聖マリア教会**があります。

ヴァヴェルの竜 - Google マップ

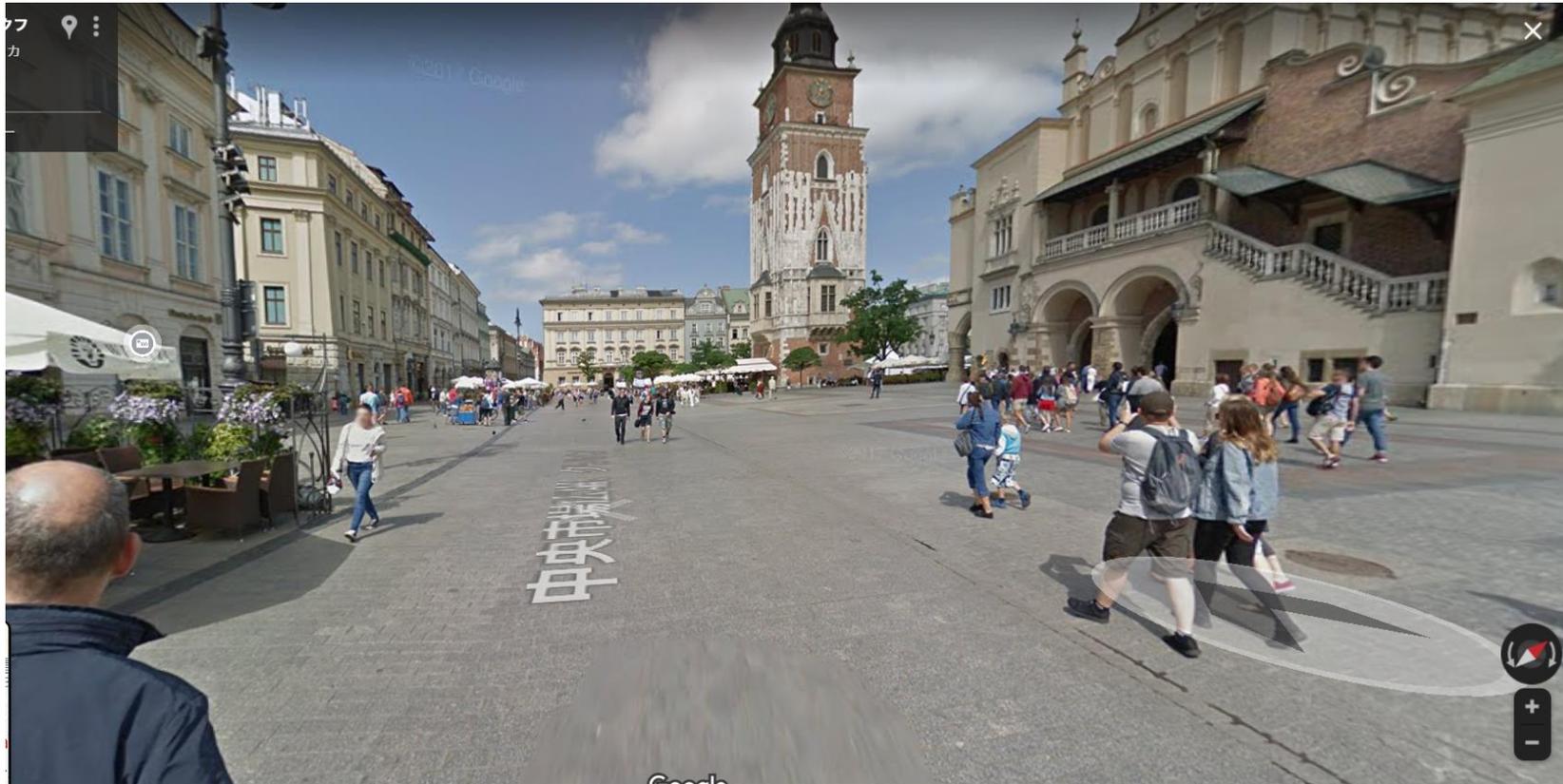
中央市場広場

織物会館



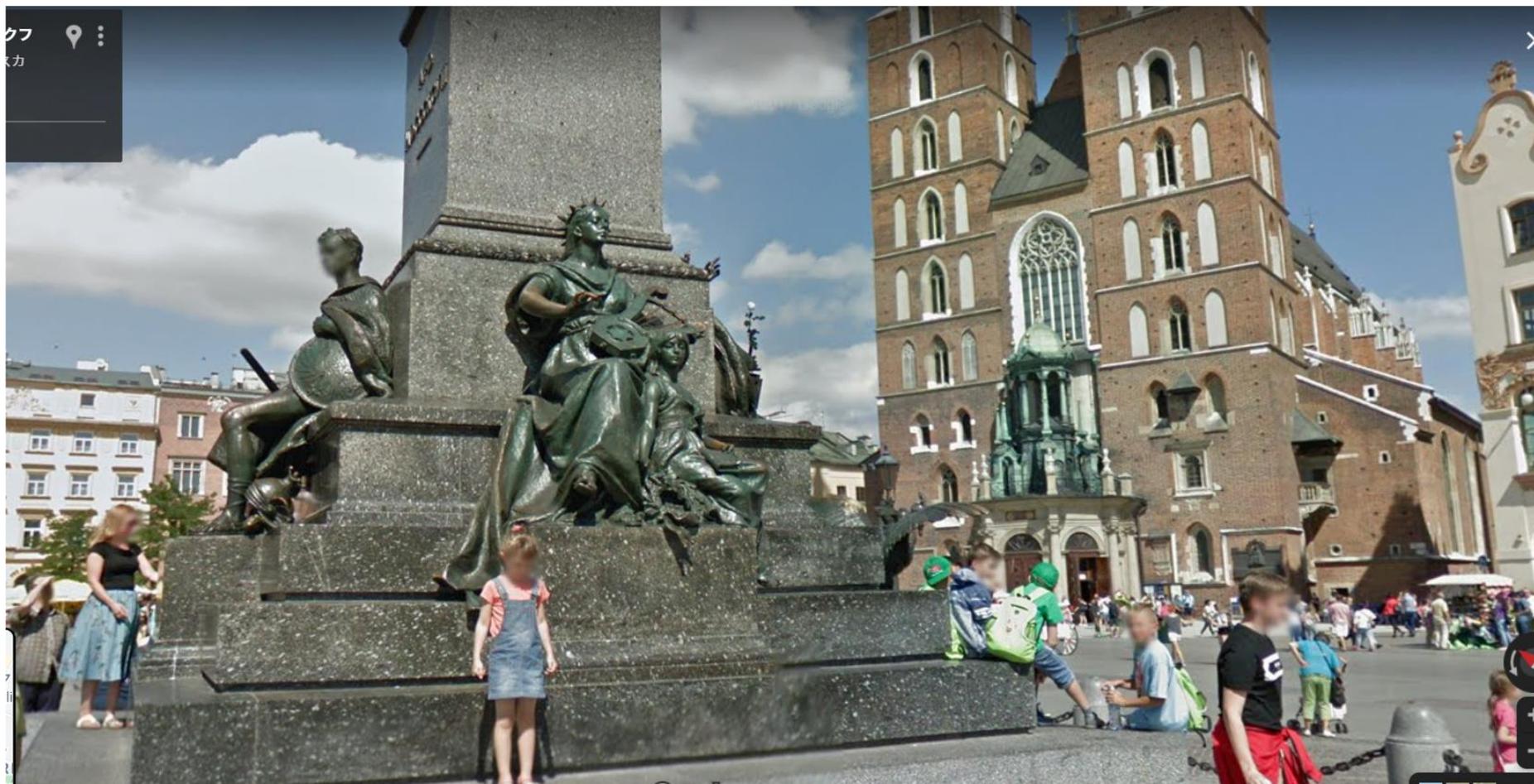
Google Mapで、中央広場を歩いてみましょう

[中央市場広場、クラクフ - Google マップ](#)



ポーランド南部に位置する“クラクフ”は、「アウシュヴィッツ強制収容所」や「ヴィエリチカ岩塩坑」へのアクセスの為の拠点としてだけでなく、古くから残る建物が成す美しい街並みを誇り、世界遺産の観光都市として栄えています。

[中央市場広場、クラクフ - Google マップ](#)

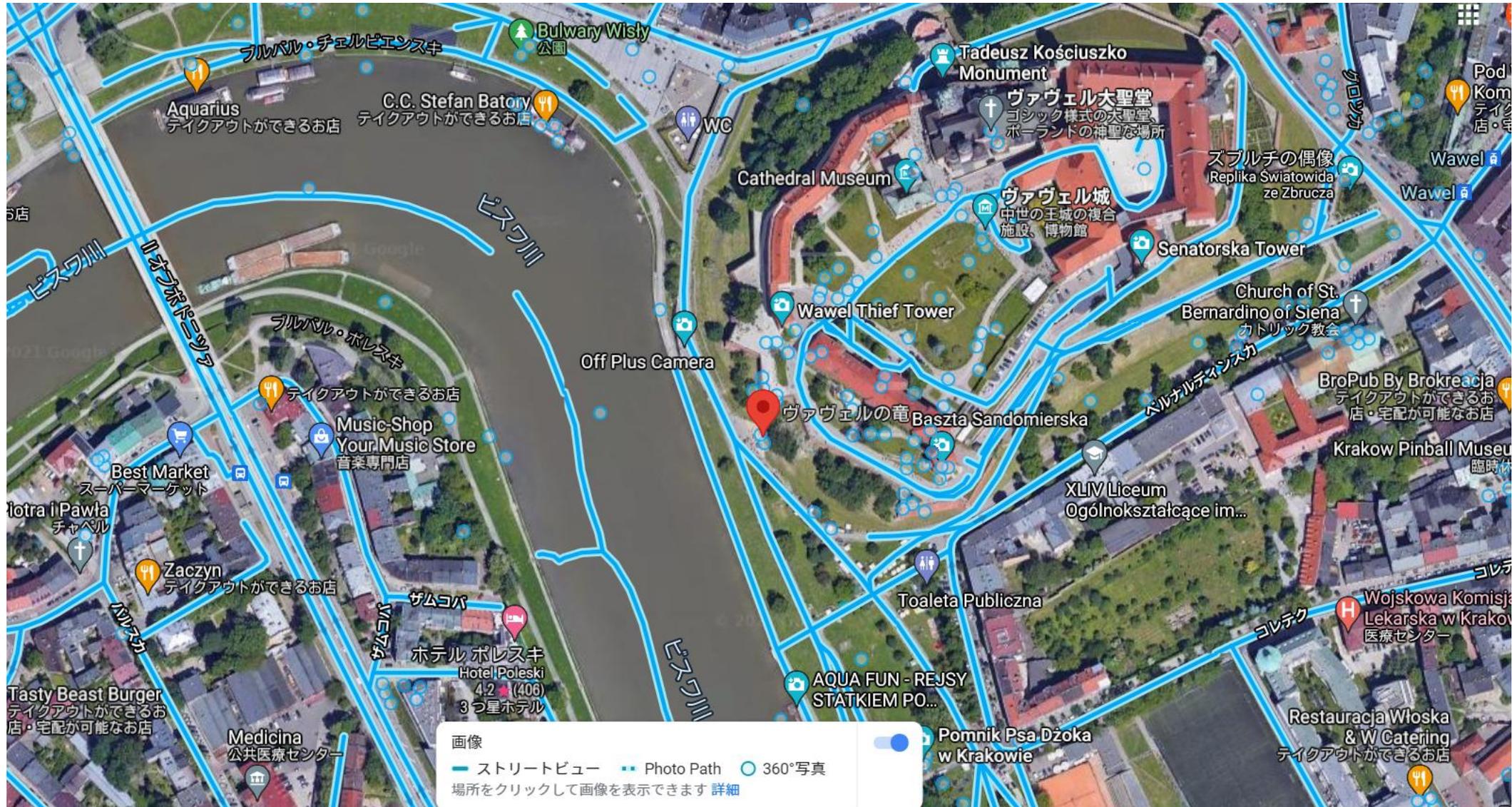


中央市場広場、クラクフ - Google マップ

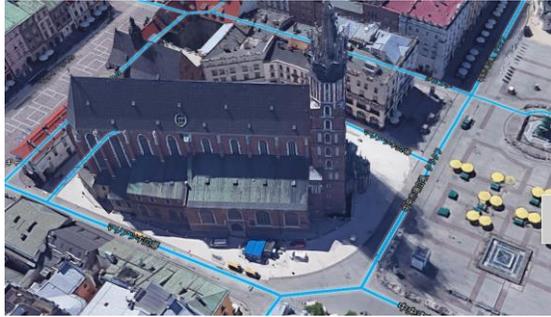


ビスワ川、 ヴァヴェル城の周辺を歩いてみよう

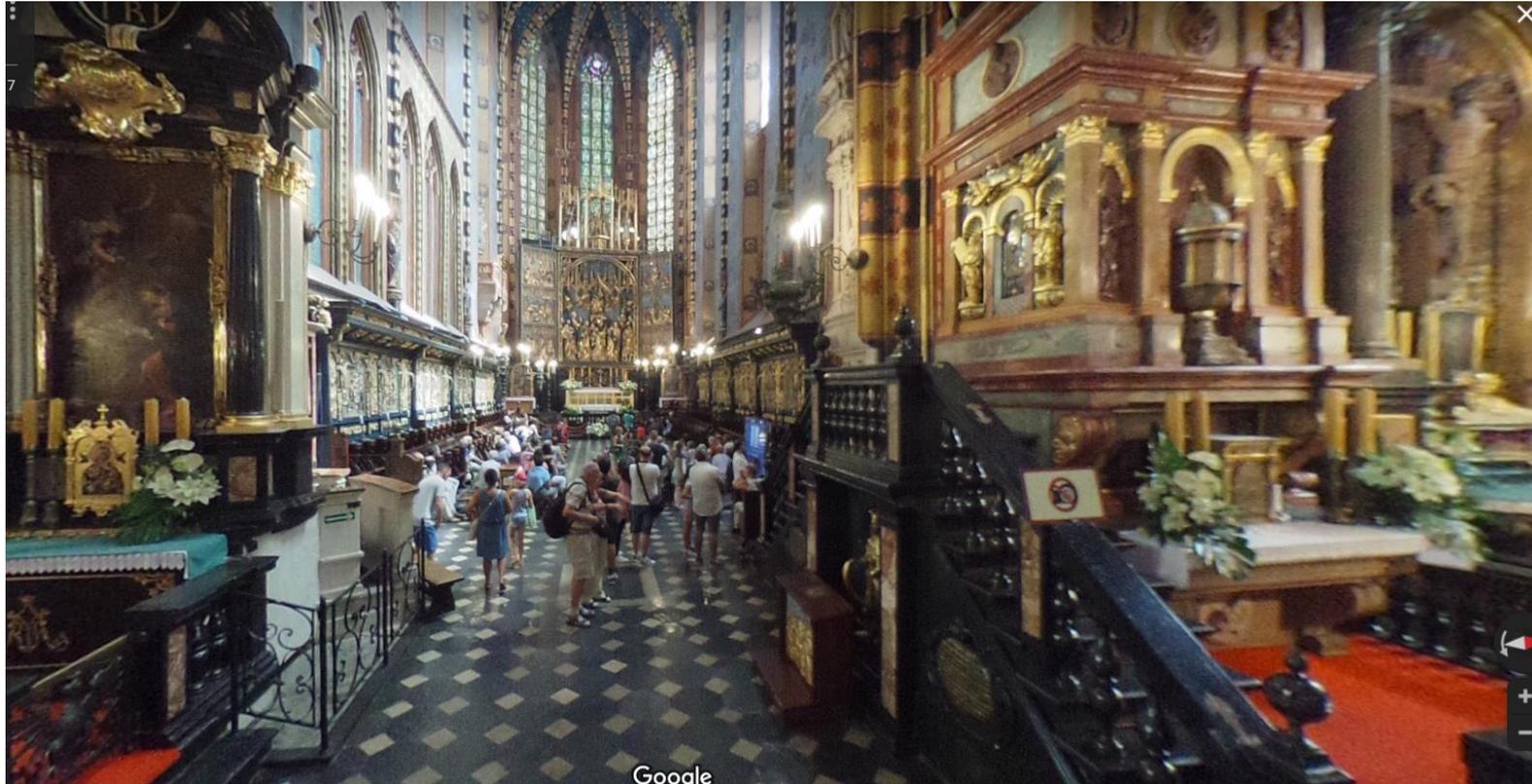
[ヴァヴェルの竜 - Google マップ](#)



聖マリア聖堂 - Google マップ



歴史的な街並みが世界遺産に登録されているポーランドの古都クラクフ。クラクフ旧市街の心臓部、中央広場にあるのが「ポーランドで最も美しい教会」ともいわれる聖マリア教会です。



1222年に建設されたゴシック様式の教会で、天を射貫くようにまっすぐ伸びる2本の尖塔が印象的。その昔モンゴル軍がクラクフを襲撃した際に、それにいち早く気づいたラッパ手が敵の襲来を告げるためこの塔からラッパを吹き鳴らしました。しかし、モンゴル兵が放った矢がラッパ手の喉を貫き、ラッパ手は亡くなってしまったのです。

それを悼んで、14世紀から現在にいたるまで一時間ごとに塔からラッパが吹き鳴らされています。「ヘイナウ・マリアツキ」と呼ばれるこのラッパの音は、今となってはクラクフを訪れる人々を中世の世界へといざなってくれる音色。古都クラクフを象徴する情緒あふれる音色なのです。

聖マリア聖堂の中を見てみましょう

[聖マリア聖堂 - Google マップ](#)



聖マリア聖堂について

祭壇の彫刻が見どころのローマカトリック聖堂。ゴシック様式の見張り塔からランペットの時報が毎時響き渡る。

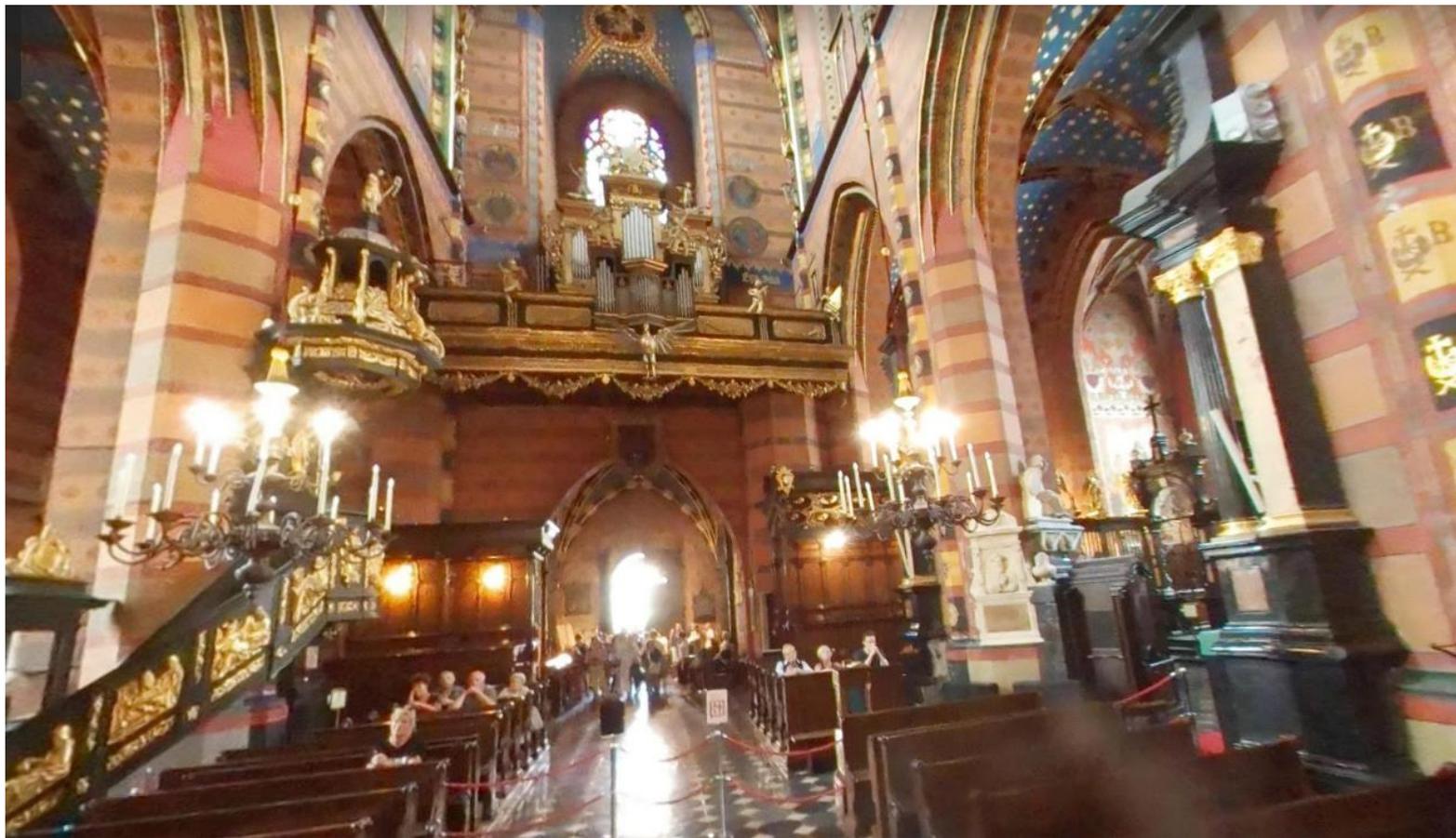
“煌びやか”とは違う、何とも重厚でエレガントな輝き！何だか青空から夕焼けに移り変わっていくコントラストを見ているようで、引き込まれる様な感覚を覚える。

金色と水色のマッチングがこれ程までに美しいとは…。

聖マリア聖堂 - Google マップ



[聖マリア聖堂 - Google マップ](#)



織物会館の中も歩いてみましょう

[織物会館 - Google マップ](#)

[中央市場広場 - Google マップ](#)



観光客でにぎわう中央広場の一角に長く広がる建物は、**1階は全長約100m**

のアーケード街になっており、**かわいらしい小物からアクセサリ、鞆などの沢山のお土産品・手工艺品**などの露店が所狭しと並んでいます。

ここで、お気に入りの一品やお土産を見つけましょう！

2階はクラクフ国立美術館、地下は絵画などの博物館となっています。

[織物会館 - Google マップ](#)



伝統的な手工芸品店が立ち並ぶ人気の市場♪

織物会館はクラクフ旧市街の中心にある中央市場広場の中央にある長さが100メートルもある細長い大きな建物にあります。

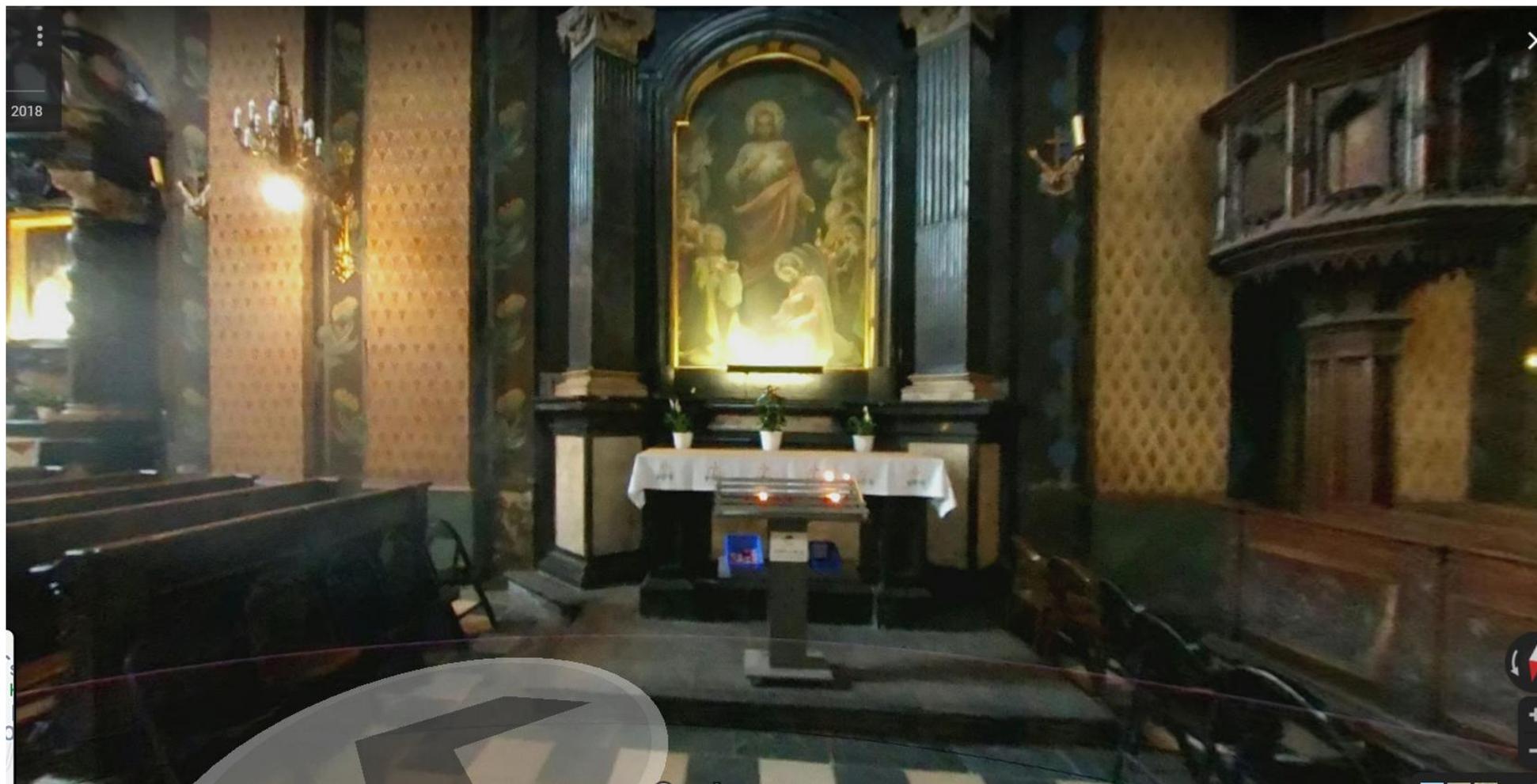
昔、この場所で布地の取引が行われていたため、織物会館という名前が付けられました。

1階には木製のかわいい玩具、琥珀、切り絵などのクラフト雑貨などのなお土産物やさんがずらりと並んでいます。繊細で美しい品物ばかりで、見ているだけでも楽しめます☆

2階は博物館になっています。織物会館の周辺にはお洒落なカフェやレストランもあります！

教会の中を見てみよう

[聖フランシスコ教会 - Google マップ](#)

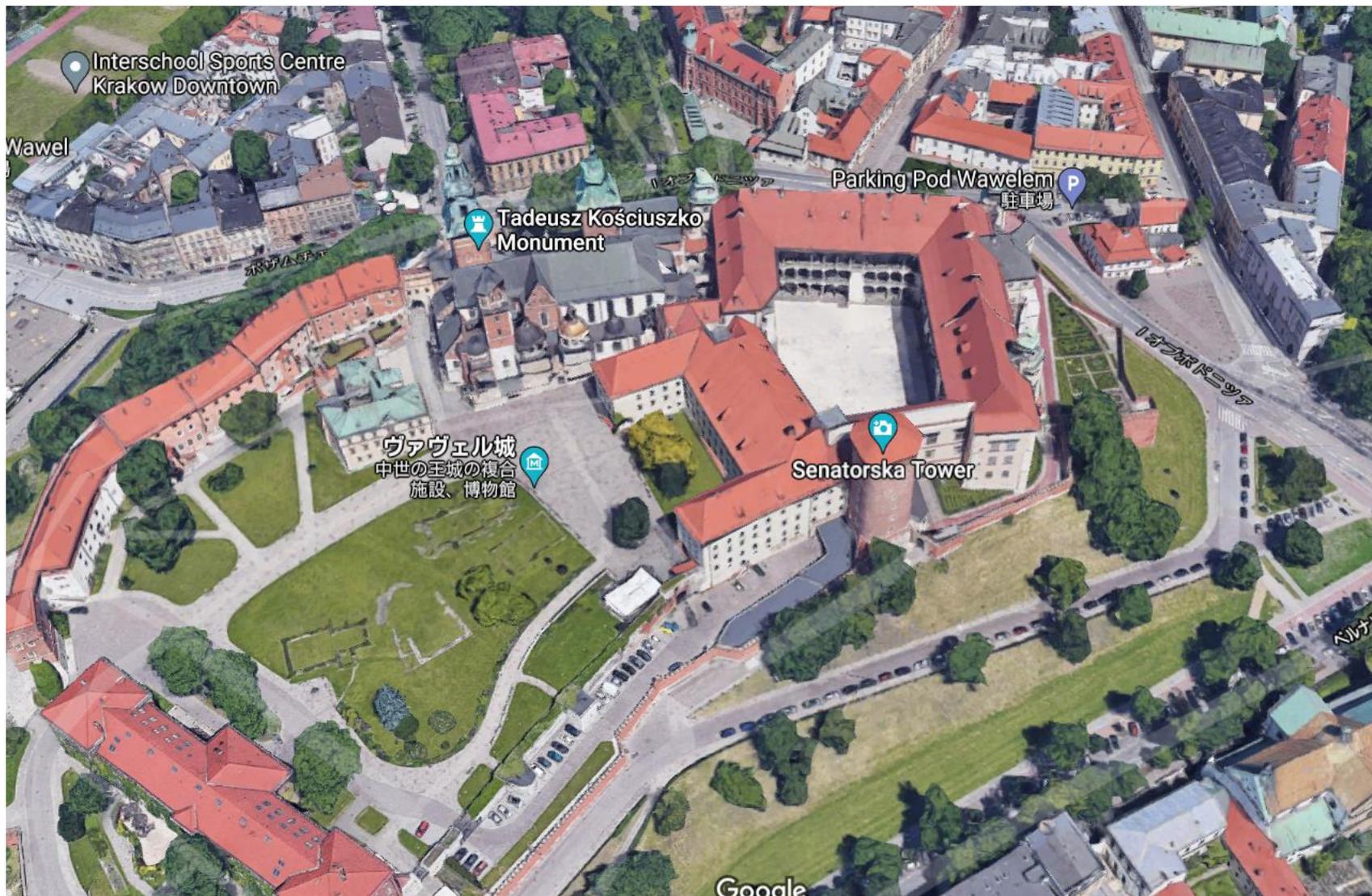


13世紀に建てられた歴史ある教会。

ステンドグラスがかなり特徴的なデザイン。

ポーランドを代表する画家であるヤン・マテイコの弟子、ヴィスピアンスキによるものだそうです。

内壁にはアールヌーヴォーっぽいお花の模様。すごく魅力的。



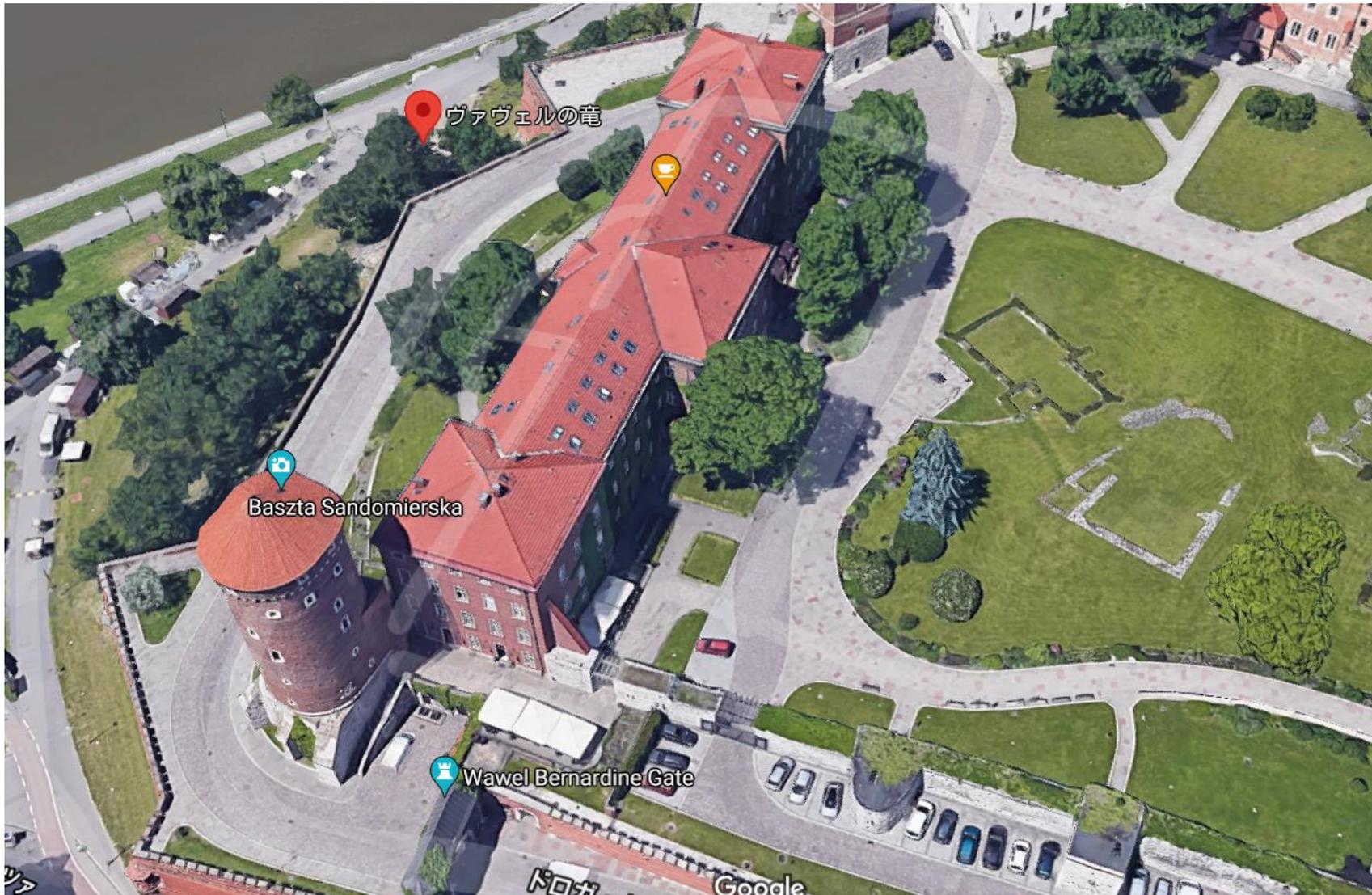
ヴァヴェル城

イタリア・ルネッサンス風のメイン中庭の周りには、**さまざまな時代の多くの建造物**で構成されており、**ポーランド王国の歴史**を物語る。

ポーランド最大の城の1つであるこの城は、**中世、ルネサンス、バロック時代のほぼすべてのヨーロッパの建築様式**を表している。

1611年に首都がワルシャワに移るまで**王の住居**であり、最盛期には塔が立ち並ぶ**壮麗な姿**だったと言う

ヴァヴェルの竜 - Google マップ



ヴァヴェル城（ヴァヴェルじょう、ポーランド語: ['vavel]; Zamek Królewski na Wawelu）は、ポーランドのマウオポルスカ県の都市・クラクフ（ポーランド王国の旧都、1596年まで首都だった）の中心部にあるポーランド王の宮殿。

ヴァーヴェル城ともいう。ポーランド王のカジミェシュ3世の命により、970年に建てられた。

[ヴァヴェル城 - Google マップ](#)



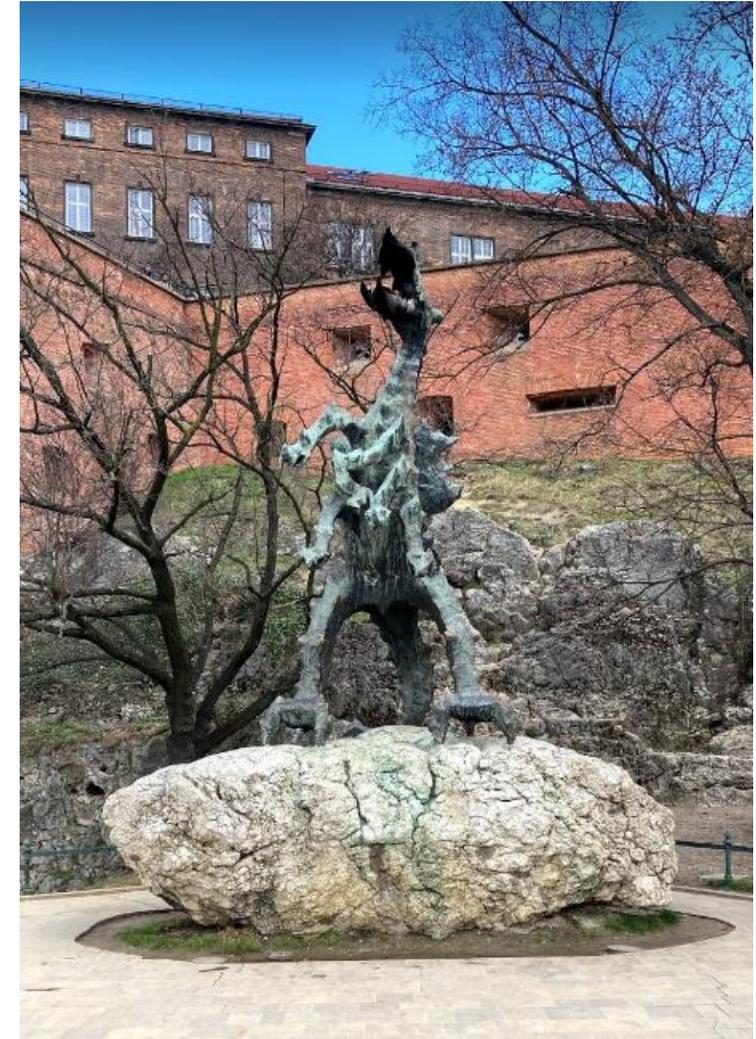
ヴァヴェル城外、ビスワ川の付近を散策できます。

[クラクフ, マウオポルスカ - Google マップ](#)



竜は、ヴァヴェル城外、ビスワ川側にいる。炎はガスを吹き出しながら着火する仕組みで、シューッとガスの噴出音がした1,2秒後に炎が数秒間見える。約3分おきに炎を吹いてくれる。
竜の口元に揺らめく炎は、話のネタになります。

ヴァヴェルの竜



Town Hall Tower - Google マップ



24 中央市場広場、クラクフ - Google マップ



[Muzeum Archidiecezjalne w Krakowie - Google マップ](#)



[ラコヴィツキ墓地 - Google マップ](#)



[12 シフィエンテゴ・バブジンツァ - Google マップ](#)

カジミェシュ地区(旧ユダヤ人街)



カジミェシュ地区(旧ユダヤ人街)

クラクフには、かつて多くのユダヤ人が住んでいました。中世の頃、西欧で迫害を受けたユダヤ人が、宗教的寛容政策をとっていたポーランドに移り住んできたからです。とりわけユダヤ人が多く住んでいたのが14世紀ごろに歴史をさかのぼるカジミェシュと呼ばれる地区です。

カジミェシュはプラハのヨゼホフに次いで世界で2番目に大きく貴重なユダヤ文化遺跡の集合体です。ここには、いくつかのシナゴグ（最も古いものは15世紀建立）や住宅、そして16世紀来のユダヤ人墓地があります。

カジミェシュをさらに南下しヴィスワ川を渡ったところにはポドグージェ（Podgórze）地区があります。ここには戦時中ゲッソーが設置されていました。戦後、街並はすっかり荒廃してしまっていたのですが、近年次々と修復が進み、シナゴグ（ユダヤ教の寺院）やユダヤ人墓地のほか、ユダヤ人街の昔ながらの店構えを再現した一角や、ユダヤ料理店、ホテルなどが並び、独特の雰囲気を持つ観光地として甦りました。スピルバーグ監督の映画「シンドラのリスト」によって一躍有名になったシンドラのエナメル工場があったのもこの地区で、工場は修復され、近い将来博物館としてオープンする予定です。

アウシュヴィッツ強制収容所

20世紀最大の悲劇が起きた地、アウシュヴィッツ。

第二次世界大戦時にナチス・ドイツがポーランドに建設したアウシュヴィッツ・ビルケナウ強制収容所では大量のユダヤ人やポーランド人が収容され、過酷な強制労働や虐殺により110万人以上の人々が命を奪われました。

この地に足を踏み入れれば、当時の過酷な生活と歴史を学ぶことができます。ソ連軍により解放されるまで惨劇が続いたこの跡地は、二度と繰り返してはならない人類の「負の遺産」として1979年に世界遺産にも登録されています。

今も残る広大な跡地と博物館を見学できる。

アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所とは

- 「アウシュヴィッツ＝ビルケナウ強制収容所」は、第二次世界大戦時にユダヤ人に強制労働をさせ、最大級の犠牲者を出した収容所です。
- クラクフから50km程離れたオシフィエンチムという街にあり、元々はポーランドの反ナチスの活動家などを収容されていましたが、次第にユダヤ人の強制収容所へと変わっていきました。
- 第二次世界大戦下で、ナチスドイツはユダヤ人の絶滅を最終目標としており、多くのユダヤ人達がここで虐殺されました。
- 1972年に博物館として世界遺産に登録され、日本の原爆ドームと同じように、人類の負の遺産と言われています。
- 当時の写真や書類などが展示されていたり、収容所に入れられた人々の物が置かれていたり、ショッキングな内容となっておりますが、戦争時に行われた悲劇の歴史を知るためにも訪れてみてはいかがでしょうか。
- アウシュビッツ博物館には様々な資料や写真などが展示されており、ビルケナウではユダヤ人達の居住棟や列車の線路などが見学できます。

アウシュヴィッツ = ビルケナウ強制収容所

[オシフィエンチム - Google マップ](#)



【2020年11月最新】アウシュヴィッツ見学で絶対知っておきたい情報8つ | ポーランドなび -WITAM!- (witam-pl.com)

第一収容所アウシュヴィッツ

ツアーではまず、写真や遺品、資料展示が主となる第一収容所を先に見学します。

第4棟・第5棟

それぞれのテーマは「絶滅」と「重犯罪の証拠」。主に1944年にアウシュヴィッツへ連行されたユダヤ人の運命をたどる写真、第二収容所ガス室の模型、遺品の数々が展示されている。第4棟2号室に聖職者の囚人リストがあり、日本に縁のあるコルベ神父の名前を確認できる。



関連記事 総まとめ | アウシュヴィッツで殉教した聖コルベ神父の生涯と長崎での宣教
2020.11.26

第6棟・第7棟

それぞれのテーマは「被収容者の生活」と「保健・衛生環境」。アウシュヴィッツに囚人として登録された人々は少なくとも40万人以上にのぼる。囚人登録の流れやカテゴリーに関する展示、囚人服や靴の展示など。第6棟4号室では収容所の子どもたちや人体実験について触れる。

第11棟・点呼広場

収容所の監獄と呼ばれる第11棟は、囚人の刑務所としての役割があった。収容所内で逃亡の企てや暴動の計画を行ったり、外部との接触を図ろうとした者たちが収監された場所。中庭には「死の壁」という銃殺刑に用いられた塀がある。地下の監獄18番でコルベ神父は殉教した。

第一ガス室



第一収容所の見学が終わると、無料シャトルバスに5～6分ほど乗車して約3キロ離れた第二収容所ビルケナウへ向かいます。

ナチス・ドイツが建設した6つの絶滅収容所のうち、**最大のユダヤ人絶滅施設**として知られるのが第二収容所ビルケナウ。多くの人が「アウシュヴィッツ」と聞いて連想するのが第二収容所とも言えるでしょう。

「死の門」とも呼ばれる正門から引き込み線がまっすぐ伸びており、その**一番奥に第2ガス室と第3ガス室**があります。

およそ100万人のユダヤ人が短期間に殺害された後、**1945年1月に爆破**されました。

ホロコーストと強制収容所の歴史



収容所の'死の門'へ、囚人たちが送り込まれるのに使われた線路

ガス室の跡



[アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館](#)
[- Google マップ](#)



[アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館](#)
[- Google マップ](#)



[アウシュヴィッツ・ビルケナウ博物館 - Google マップ](#)



ヴロツワフ

- ポーランド西部にある第4の都市で、ドルヌィ・シロンスク県の県都
- 歴史的にシロンスク地方の中心都市で、ポーランドの中でも最も古い都市のひとつである。
- 市内にはオーデル川とその支流が流れ、200以上の橋が架かっている。
- ヴロツワフは歴史上、様々な国（ポーランド王国、オーストリア帝国、ドイツ、ハンガリー、プロイセン、ボヘミア）の一部となっていたが、1945年（第二次世界大戦後）にポーランド領となった。
- ヴロツワフは、UEFA欧州選手権2012開催都市の一つとなった。
- また、2016年には欧州文化首都となり、2017年にはワールドゲームズ2017の開催地にもなった。



ヴロツワフ

[東欧の「小人の街」ポーランド・ヴロツワフ観光でやりたいこと7つ | ミルノテ \(millnote.net\)](#)

- 1 着いたら美味しいポンチキを食べましょう
- 2 小人を発見しよう！ユニークな銅像たくさん
- 3 東欧らしい景色に会える場所。オーデル川沿いを歩こう！
- 4 大パノラマ画！Panorama of Raclawice Battleでポーランドの歴史を知る
- 5 ちょっと怖い。Church of St.Elizabethに登りヴロツワフ一望

ポンチキはポーランド版の揚げドーナツ



その前にお腹が空いたので、早速ポーランド名物のポンチキをいただきます。ポンチキはポーランド版の揚げドーナツです。

【Stara Paczkarnia】というお店はヴロツワフのポンチキ屋さんでは人気なようで、大行列ができていました。



小人の街ヴロツワフ

小人の街ヴロツワフ。街中にたくさんの小人がいます。

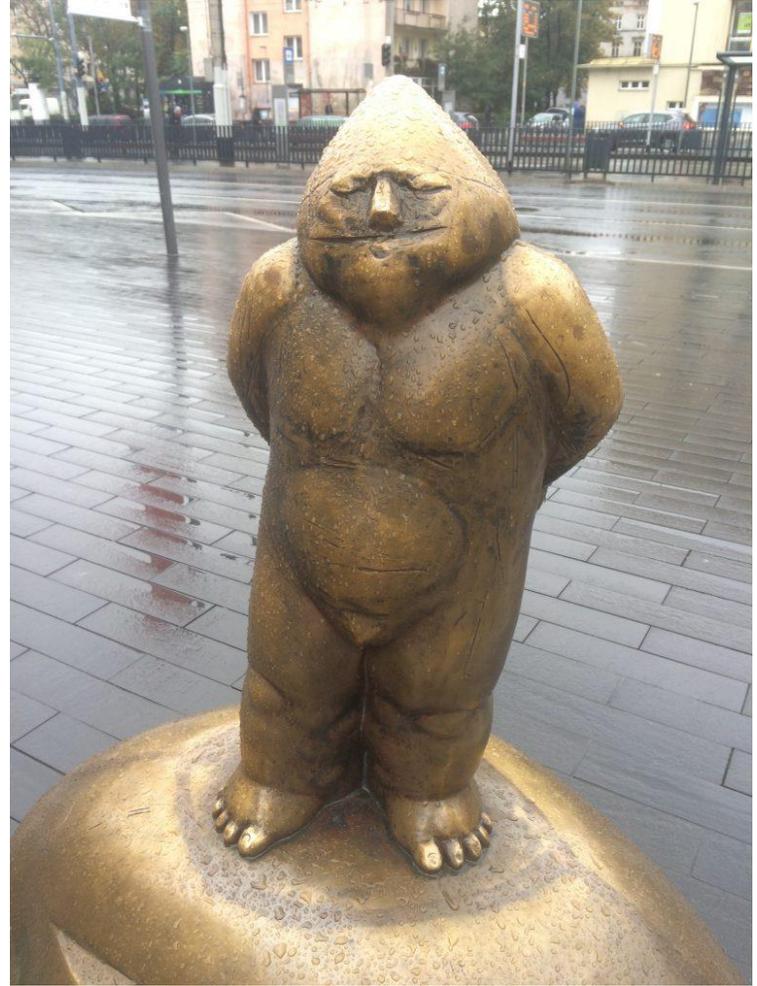
銅像とはいえとっても小さいので、それなりに目を凝らして探さないと見つかりません。

観光名所ではかなりの確率で見つけることができます。



街にゾンビ？



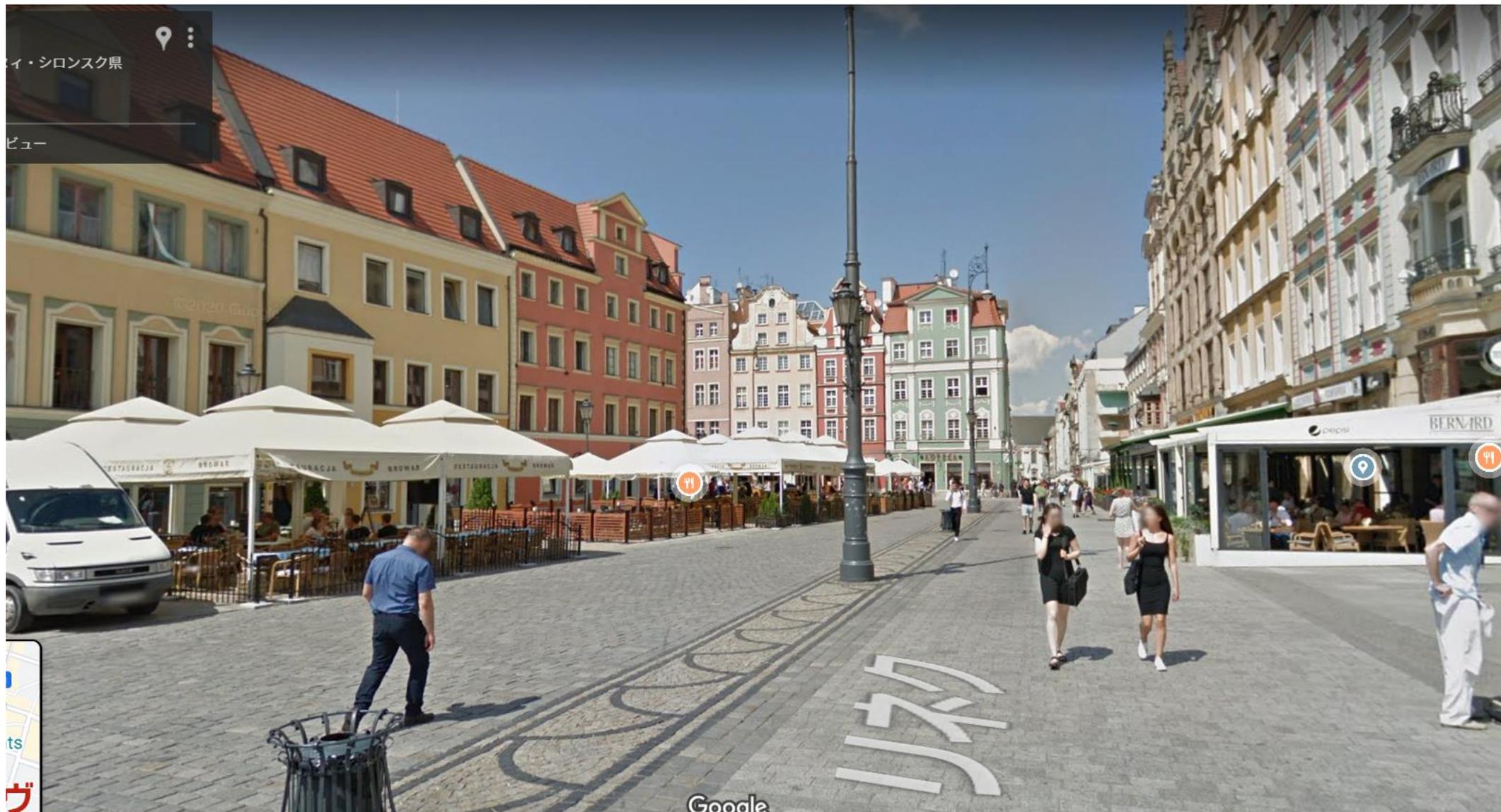


[Stare Jatki - Google マップ](#)

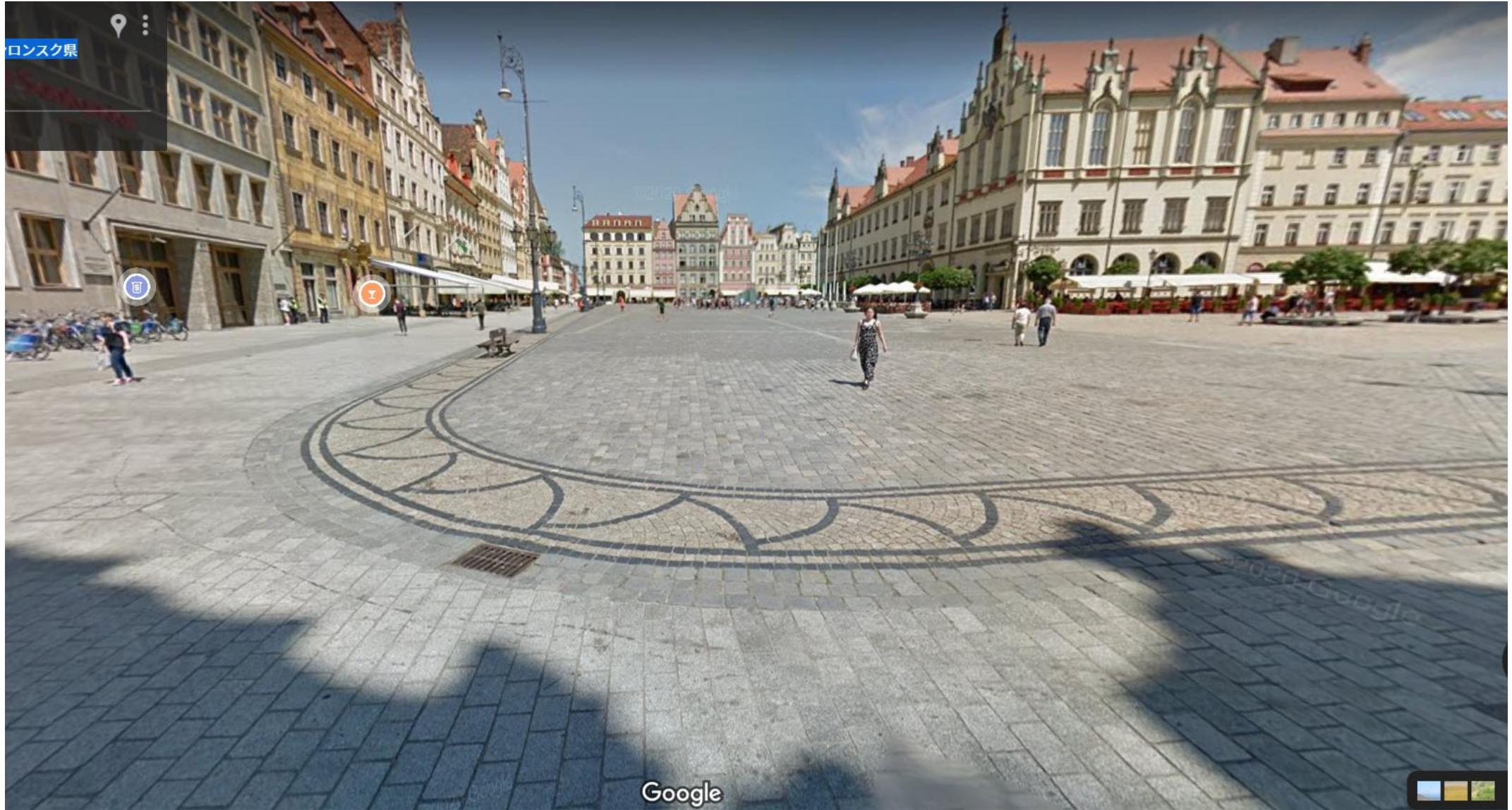




町の中心部を歩いてみます。
旧市街は淡い色合いの大きな建物が並び、とても素敵です。



12 リネク - Google マップ



[ビエンジェンナ - Google マップ](#)





東欧らしい景色に会える場所。

オーデル川沿いを歩こう！

旧市街の北側には名門**ヴロツワフ大学**があり、そのすぐ側には美しい**オーデル川**が流れています。

ここからの風景は素朴な美しさがあり、**東欧の風景**を感じられるような場所です。

対岸には**Cathedral of St,John the Baptist**がそびえています。

オーデル川

[Wyspa Słodowa - Google マップ](#)



Wyspa Bielarska - Google マップ



この円形の建物の壁360度、絵が描かれています



Church of St.Elizabeth

エリザベス教会



教会の階段は螺旋状になっていて、狭くて段差もそこそこあるので割と大変です。階段を登り終えて展望台へ出ます。

塔と塔を結ぶ橋のような場所から下を眺められるようになっており、その「橋」のように感じながらも怖いのです。

その日は風も強く、意気込んで登ったのは良いですが、恐る恐る写真を撮りすぐに降りてきましたよ。

後から写真で見ると、曇っていますがヴロツワフのくすんだ赤茶色の景色が美しかったです

ヴロツワフのくすんだ赤茶色の景色



[聖エルジュビェタ教会 - Google マップ](#)



[Klub Na Jatkach - Google マップ](#)



[Art Hotel - Ogródek zimowy - Google マップ](#)

こんなホテルに泊まってみたい



[ミコワヤ・コペルニカ公園 - Google マップ](#)



Google

百周年記念ホール - Google マップ



グダニスク

グダニスクは、ポーランドの都市。バルト海南部に面するポモージェ（ポメラニア）地方東部に位置し、グダニスク湾を擁する**ポーランド最大の港湾都市**であり、ポモージェ県の県都である。**第二次世界大戦後に再建された中心街**の中央には、色とりどりのファサードが並ぶロングマーケットがあり、店やレストランが軒を連ねています。近くの広場には、**海神のブロンズ像をしつらえた17世紀のネプチューンの噴水**があり、街の象徴的な存在となっています。グダニスクは世界的な**琥珀産業の中心**でもあり、琥珀製品を取り扱う店が街のあちこちにあります。

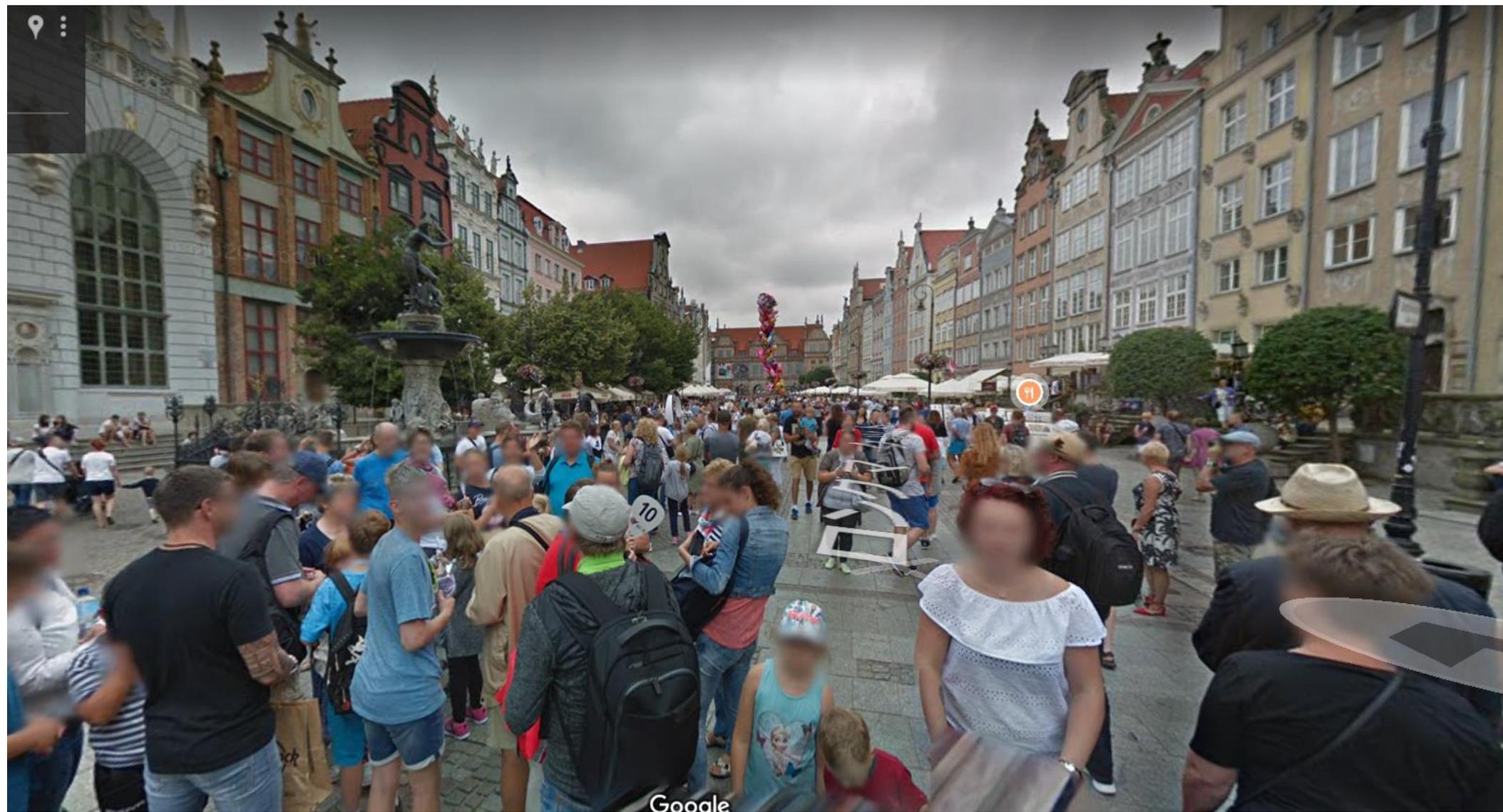


[ストンギエブナ - Google マップ](#)

ここに船着き場がある。ここから再建された市街地に歩いて行ける。



1 ロングマーケット - Google マップ



[聖マリア教会 - Google マップ](#)



Pawel Jankowski - Google マップ



21

2021/5/28 (金)
インターネット世界旅行

ポーランド (第2回)

クラクフ、ヴロツワフ、グダニスクの巻

終わり



吉岡 芳夫

この資料は、インターネット上の情報を利用して作成しました。